

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	常葉大学
設置者名	学校法人常葉大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>12月下旬より授業科目担当者に対して、授業計画(シラバス)の作成を依頼し、1月下旬までに提出させるとともに、提出の際にシラバスの自己点検の結果を併せて提出させている。</p> <p>その後、各学科から選出されたシラバスチェック担当者によるシラバスチェックを行い、3月中旬までの間、必要に応じてシラバスの修正を依頼する。</p> <p>3月下旬から本学ホームページ上においてシラバスを公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.tokoha-u.ac.jp/campuslife/support/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業担当者は、シラバスの中に成績評価の方法・基準について、試験、レポート、受講態度など担当する授業の特性にあった適切な方法を記載している。</p> <p>成績評価については、成績評価規程の基準を踏まえ、学習成果を厳格かつ適正に評価して単位を与えている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学生の成績評価方法の一種で本学では学習意欲の向上、学習指導への活用等を目的にGPAを導入している。</p> <p>GPAの計算方法については、学生便覧に記載するとともに、学生便覧をホームページにおいて公表している。</p> <p><GPAの計算方法> 「秀」=4ポイント、「優」=3ポイント、「良」=2ポイント、「可」=1ポイント、「不可」=0ポイント</p> $\frac{\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1}{\text{履修登録単位数}}$	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/regulations/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学部とも卒業認定に関する方針に基づき、学生の修得単位数、在学期間等を踏まえ、卒業を認定している。</p> <p><教育学部></p> <p>知識・理解 学校等の教育機関及び社会において必要とされる、教育に関する専門的な知識を身につけ、教育の方法や技術に関する理論の理解を深めることができる。</p> <p>思考・判断 現代の教育的課題を受けとめ、それに対する自らの意見をもち、根拠を明確にしながらか表現したり議論したりすることができる。</p> <p>関心・意欲 教育問題や子どもの成長・発達に関心を持ち、自己の学習課題と関連させながら意欲的に探究することができる。</p> <p>態度 学校教育や社会教育の専門的職業人として求められる使命感や責任感を身に付け、子どもをはじめ他者と意思疎通を図ることができる。</p> <p>技能・表現 教育活動を展開するための、学修で身につけたさまざまな技能を適切に用いることができる。</p> <p><外国語学部></p> <p>知識・理解 世界諸地域の言語・文化・歴史・社会に関する専門的な知識を修得している。</p> <p>思考・判断 物事を国際的な視点から柔軟にとらえ、問題解決に結びつけることができる。</p>	

関心・意欲

国際社会の 言語、文化的、社会の問題に広く関心を持つことができる。

態度

国際社会に貢献する姿勢を身に付け、地域社会のニーズに応えることができる。

技能・表現

実践的な外国語運用能力を身につけている。国際社会で働く上での実務的なスキルを身につけている。

<造形学部>**知識・理解**

人間と社会の在り方に直結した造形活動の意義を考察できる。

思考・判断

人間と社会における様々な問題について考察し、モノや情報を生み出す造形活動について幅広い視野で適切な対応を考えることができる。

関心・意欲

造形表現活動などの自己探求および市民生活や経済活動に対する観察や分析を継続する中で課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的かつ自律的な学修および行動ができる。

態度

他者や地域社会と多様な価値観を共有しながら、実践的に自らを発信できる。

技能・表現

国家・社会・地域の文化振興に造形活動を通して貢献するために、高度な技能をもって豊かな表現を行うことができる。

<法学部>**知識・理解**

法・政策に関する専門知識を土台に、社会の状況を適切に理解できる。特に、現代社会において基底的価値をなす自由・平等・人権・民主主義といった基礎概念について十分に理解できる。

思考・判断

現実を適切にとらえ、その問題を発見し、解決法を検討できる。適切な情報の収集・選択を行う情報リテラシーを身につけ、客観的かつ合理的な社会認識に基づき論理的な思考・判断ができる。

関心・意欲

社会に関心を持ち、その中で生きる自分と社会の関わりについて考察することができる。社会の基底的価値に関する理解に基づき、社会や自己についてより好ましい在り方について検討できる。

態度

社会や自己の状況に関する適切な認識を元に、自らの在り方を作り上げることができる。自らの意思に基づいて主体的に行動し、社会正義の実現のため積極的に関与できる。

技能・表現

市民として他者と適切にかかわり社会生活を送ることができる。他者と適切にコミュニケーションをとることで、自らの意思の内にある社会像・自己像に向かうことができる。

<健康科学部>**知識・理解**

社会人としての深い教養と幅広い知識を修得することができる。そのうえで、医

療専門職になるために、必要な知識と技術を身につけることができる。

思考・判断

医療専門職としての責任と役割を果たすため、複雑化する保健医療福祉における問題を明らかにすることができる。そして、明らかにした問題の解決方法を示すことができる。

関心・意欲

包括的な保健医療福祉サービスを提供するために、他の専門職と協働し、職種間の連携を考え、その中での自己の役割を自覚できる。また、看護学および理学療法学の発展のために、自己および他の学問領域に関心を持つことができる。

態度

豊かな人間性を養い、人権や生命に対する深い尊厳の気持ちを持つことができる。また、医療専門職として高い倫理観の下、適切に対応することができる。

技能・表現

修得した専門的知識や技術を保健医療福祉分野で実践できる。そして、変化する社会の要請に対応するための応用力を身につけることができる。

<経営学部>

知識・理解

経営学の基礎知識・基本理論を幅広く修得したうえで、経営・会計・情報、関連する経済分野における専門性を身に付けている。これらの専門知識を体系的に理解している。静岡県をはじめとする地域経済や環境問題等の現代社会の諸課題を理解している。

思考・判断

修得した経営学の基礎知識を活用して、自らが取り組むべき課題を解決するための思考・判断をすることができる。経営学の基本理論を、経営・会計・情報、関連する経済分野において包括的かつ実践的に応用できる。

関心・意欲

企業や行政機関で活躍するためのチャレンジ精神と実践力を持っている。仕事をとおして自己実現を図り、地域社会に貢献しながら自らも成長したいという意欲をもっている。複雑化・多様化する社会の中で新しい課題を発見することができる。

態度

静岡県をはじめとする地域の発展に貢献するための知徳を兼備する。人として地域社会に生きる“術”や豊かな人間関係を築くことができる。将来の自己実現に向けて、継続的に主体的に学習に取り組むことができる。

技能・表現

さまざまな業種・職種において必要とされる基本的な技能を身につけている。修得した知識や技能を活用し、思考・判断したことを、社会の中で実践に結びつけていくことができる。また、必要に応じて、体験したことや思考・判断したことを適切に記録、要約、説明できる。

<健康プロデュース学部>

知識・理解

「健康」に関する基礎的知識を持ち、時代の要請や人々の価値観によって変化する健康概念を理解している。

思考・判断

新しい健康観とはどのようなものか、多様な視点から大局的に考えることができる。

関心・意欲

新しい健康観を創り出すことに関心を持ち、そのために必要な知識や技能を獲得し、向上させる意欲を持つことができる。

態度

「健康」を創り出す専門家としての実践力を高める努力を継続することができる。

技能・表現

「健康」を創り出すために獲得した知識・スキルを、人と社会のために活用することができる。

<保健医療学部>

知識・理解

社会人として必要な一般教養と医療専門職として必要な基礎的な医学的知識を身につけている。そのうえで、リハビリテーションの概念を理解し、これに参画するために必要な専門知識を活用できる。

思考・判断

疾病や障害を多面的に捉えることで、対象者の置かれている状況を総合的に判断できる。そのうえで、リハビリテーションチームの一員としての自らの役割や関わり方を見出すことができる。

関心・意欲

医療の担い手としての高い倫理観と、様々な人生観、価値観を尊重できる豊かな人間性を身につけている。そして、リハビリテーションを通して、地域、社会に貢献すべく、人々の健康を支援するための責任ある行動を取ることができる。

態度

医学の進歩や社会情勢の変化を見据えたうえで、体系的・客観的思考をもって自らの専門性を高め、リハビリテーションの発展に寄与することができる。

技能・表現

リハビリテーションチームを構成する他職種と円滑なコミュニケーションを図ることができる。また、チームの中で自らの役割を果たすために必要とされる専門的な技術を活用できる。

<社会環境学部>

知識・理解

環境・防災分野の専門知識を有し、環境や防災の課題について、自然環境と人間社会の相互関係から把握し理解することができる。

思考・判断

環境・防災分野に関する専門知識を基に、地域社会の中で暮らしを営む“ヒト“の視点から問題を発見し、最適解を探求することができる。

関心・意欲

環境や防災の問題にとどまらず、持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、社会の抱える課題の解決のための幅広い学問的好奇心を持つことが出来る。

態度

環境課題や防災課題を克服した持続可能な社会システムの構築を目指すことができる。

技能・表現

環境問題の解決や安全な社会システムの構築のために、実践的な知識、素養、技術を身に付け、広く社会に貢献できる。

<保育学部>

知識・理解

保育の基礎的な知識を土台に、実践を通して、専門性の理解を深めることができる。

思考・判断

保育課題について自ら考え、解決方法を提案することができる。

関心・意欲

保育課題に関心を持ち続け、解決に向けて取り組む意欲を維持することができる。

態度

保育課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。

技能・表現

子どもの感性や創造力を引き出す表現力と技能を活用することができる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[https://www.tokoha-
u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/policy/](https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/policy/)